

令和5年度 第2回沖縄県がん診療連携協議会 小児・AYA 部会 議事要旨

日 時：令和5年7月19日（水） 15：00～16：20

場 所：WEB会議

構 成 員：19名

出 席 者：9名

比嘉猛(南部医療センター・こども医療センター小児科)、屋亘孟(南部医療センター・こども医療センター小児血液・腫瘍内科)、山本真充(南部医療センター・こども医療センター小児看護専門看護師)、岩崎政志(森川特別支援学校)、金城正樹(沖縄県教育庁保健体育課)、金城敦子(がんの子どもを守る会 沖縄支部)、宮平有希子(がんの子どもを守る会 沖縄支部)、外間早紀子(沖縄県保健医療部健康長寿課)、増田昌人(琉大病院がんセンター)

欠 席：10名

大畑尚子(中部病院血液・産科)、伊良波史朗(南部医療センター・こども医療センター放射線科)、中里哲郎(南部医療センター・こども医療センター血液・腫瘍内科)、浜田聡(琉大病院小児科)、銘苺桂子(琉大病院産婦人科)、比嘉泉(琉大病院看護師)、崎間恒哉(沖縄県教育庁県立学校教育課)、森島聡子(琉大病院第二内科)、當銘保則(琉大病院整形外科)、佐久川夏実(南部医療センター・こども医療センターCLS*休職中)、

陪 席 者：2名

有賀 拓郎(琉大病院 診療情報管理センター)

石川 千穂(琉大病院 がんセンター)

【報告事項】**1. 令和5年度 第1回小児・AYA部会 議事要旨(5月22日)**

増田委員より、資料1に基づき説明があり、承認された。

2. 小児・AYA部会 委員一覧

増田委員より資料2に基づき、委員について報告された。新委員として、がんの子どもを守る会沖縄支部副代表の宮平有希子さんが加入した。

【協議事項】**1. 第4次沖縄県がん対策推進計画（協議会案）について**

増田委員より、資料3に基づき説明があった。国のロジックモデルと指標に大幅な変更があったため、そちらをキャッチアップしていることと、そのために事前にメールで頂いた意見や提案をまだ反映できていないことが説明された。本日は新たな意見は特に出なかったが、引き続き、提案等があれば連絡をお願いしたいとのことだった。

2. 今年度の部会活動計画について

増田委員より、当日資料、今年度の部会活動計画(案)についての説明があり、今年度の活動内容について意見や提案はないかと確認があった。以下、意見や状況のまとめ。部会終了後も、提案等はメールでも受け付けるとのことだった。

- 個別施策「小児がん患者を、速やかに琉大病院または県立こども医療センターに紹介する」は、いずれかの病院に紹介されている状況は満たしている。(比嘉委員)
- 個別施策「小児患者に対して最新の知見に基づく臨床試験や治験も含めての最適な治療が、タイムリーで質が高く、安全に実施する」、「小児がんに対して、患者に対して晩期合併症の検索も含めて、長期フォローアップを行う」については部会でディスカッションが必要かと思われる(増田委員)
- 中間アウトカムにレスパイト施設等、サポートするための施設数を入れて頂きたい。(金城委員：がんの子どもを守る会)
- 増田委員から「がん教育」の部分はスムーズに進んでいるのか確認があり、保健体育課の金城委員より、高校の保健の授業では各学校の単元の中の一部にがんについて教える項目が学習指導要領のなかに設けられているとの回答があった。小学校の方は、「総合的な学習の時間」の中で行わなければならない等、高校よりはハードルが高いかもしれないとのことだった。
- 琉大と南部医療センター・こども医療センターの分校で授業を行っており、医療関係者と教員とで、保護者のフォローも含めた支援を行っている。治療のスケジュールや体調などの関係により個々の受講状況に差はあるようだ。(岩崎委員)
- 外部人材の活用というところが、依頼先をどうするかということと、コロナの状況の中で外部から人を呼ぶことが困難な状況ではあった。(金城委員：教育庁保健体育課)
- 南部医療センター・こども医療センターでは、森川の先生が中心になって、退院時に復学に関するカンファレンスを原籍校の先生や保護者と共に行っており、かなり有用に感じるので、その部分を充実させていければ。(山本委員)

3. アピランス支援モデル事業について

増田委員より資料 5 に基づき、令和 5 年度アピランス支援モデル事業公募に琉大病院が、選ばれたことが報告された。具体的には、本島内、宮古、石垣の方で医療者向け研修会と、患者向けの勉強会を行う予定である。また、アピランスケア研究を積極的に行っている資生堂や地元美容業界にもご協力頂く予定であることが説明された。

4. 『おきなわ 小児がん相談支援マニュアル』の改訂について。

増田委員より、資料 6 の、以前メールで行ったアンケートの結果についての説明と、がんサポートハンドブックの中に、4 ページ程度、小児がん部門を充実させる方向でまとまりつつあることが報告された。

5. 『小児がん経験者のための健康管理応援ガイド』の取り扱いについて

金城委員より、資料 7 と「がんの子どもを守る会」の HP に基づき、みんなの健康管理サイトに関する説明があった。『小児がん経験者のための健康管理応援ガイド』を事務局の方で一括で取り寄せ、南部医療センター・こども医療センターと琉大病院で配布することとなった。

6. 『がんと告知された小児・AYA 世代の方がまず始めに手に取るパンフレット』の取り扱いについて

増田委員より、資料 8 に基づき、『がんと告知された小児・AYA 世代の方がまず始めに手に取るパンフレット』の紹介があった。事務局でパンフレットを取り寄せ、南部医療センター・こども医療センター及び、各拠点病院、AYA 世代を診ている施設へ発送する。

4. 次回開催

3 カ月後を目処に、事務局よりアンケートで日程調整を依頼する予定。

以上

令和5年度 第1回がん患者さんがお子様をもつことを応援する医療
「妊孕性温存療法」と「がん治療後の生殖医療」WG
議事要旨

日 時：令和5年9月13日（水） 15：00～16：00

場 所：「Zoom」を用いたWEB会議

出席者：8名

野里栄治(北部地区医師会病院 外科)、大畑尚子(県立中部病院 産婦人科)、中上弘茂(県立八重山病院 産婦人科)、池宮城梢(那覇市立病院 産婦人科)、野原理(友愛医療センター 産婦人科)、外間早紀子(沖縄県保健医療部健康長寿課)、銘苺桂子(琉大病院 周産母子センター)、増田昌人(琉大病院がんセンター)

欠席者：10名

安次嶺宏哉(沖縄協同病院 腫瘍内科)、石川裕子(県立宮古病院 産婦人科)、阿部典恵(中頭病院 乳腺科)、當銘保則(琉大病院 整形外科)、仲地佐和子(琉大病院 第二内科)、長嶺英樹(琉大病院 脳神経外科)、野村寛徳(琉大病院 第一外科)、浜田聡(琉大病院 小児科)、比嘉猛(南部医療センター・こども医療センター 小児科)、平敷千晶(琉大病院産婦人科)

陪席者：2名

有賀拓郎(琉大病院 診療情報管理センター)
石川千穂(がんセンター)

【報告事項】

1. 前回 WG 議事要旨(令和4年2月17日)

資料1の通り、承認された。

2. 令和5年度第2回 小児・AYA部会 議事要旨 (令和5年7月19日)

資料2の通り、承認された。

3. 妊孕性温存療法とがん治療後の生殖医療 WG 名簿

資料3に基づき、確認があった。友愛医療センターから、白石先生に代わり野原委員が新しく加入した。

4. 小児・AYA部会 名簿

資料4に基づき、確認があった。

5. がんに関わる全ての医師に対する院内研修会の開催について

資料5に基づき、銘苺委員が講師の研修会が開催済みの施設が報告された。ハートライフ

病院は研修会が開催済みだが、「がん治療と妊娠 地域医療連携」のがん治療施設に、事務手続きの都合により未掲載。南部医療センター・こども医療センターでの開催後(10月2日開催予定)に、併せて掲載を依頼する。

6. がん・生殖医療連携シートの改訂について(再掲)

資料の通り、特に以前からの変更はないが、改めて確認依頼のため再掲された。銘苅委員より、連携シートの内容について、がん治療医から何か意見はないか確認があったが、特に出なかった。

7. 「妊孕性温存療法」に対する医療補助について

(1)医療補助申し込み文書

外間委員より、説明があった。今年の5月から実施要綱と各種様式にも変更があるため、再確認が依頼された。予算の上限に達した場合、年度途中で受付を終了することもリーフレット及び県HPに記載されている。年度内に申請して欲しいこと、もし予算上限に達した場合、年度途中で助成金申請の受付を終了すること等、患者さんや家族への周知が依頼された。

(2)申し込み実績(令和5年8月末時点)

外間委員より、資料7-(2)の通り、9月現在までの状況が報告された。

8.その他

陪席の有賀先生から、来週から、骨髄移植に伴う全身照射に関して、子宮と卵巣を温存した状態の全身照射が可能となったので、該当の患者さんがいれば、琉大に紹介して頂ければとの情報提供があった。

【協議事項】

1. 拠点病院及び診療病院において、対象患者すべてに、生殖機能の温存に関する説明を共用文書を用いて行うにはどうしたらよいか
2. 琉大病院の『妊孕性温存療法についての専門外来』へ積極的に紹介するにはどうしたらよいか

銘苅委員より、資料8の通り、研修会を行った各施設の電子カルテには連携シートと共通説明文が掲載されてはいるが、引き続きワーキングの委員から、がん治療の医師やコメディカルの方々へ、妊孕性温存療法の地道な周知を行い、琉大や友愛医療センターへ紹介して頂ければとの発言があった。また、銘苅委員より、琉大で行われた妊孕性温存療法の実績に関する資料と、県内の各施設から琉大へ紹介された症例に関する資料が示され、詳細について説明があった。

3. 症例検討について

事前に募集した質問等に対して、関連する科の医師より回答があった。

4. 妊孕性温存療法に関するオンライン診療について

有賀先生より、妊孕性温存を行う生殖医療医が、ICカードを取得し、必要な講習を受講し

ていれば、オンラインで診療報酬請求が可能となるとの説明があった。カードの発行に時間がかかること、発行と更新のランニングコストについては課題である。また、有賀先生より、カウンセリングはかなりナイーブな内容となるので、それをオンラインでどこまで話せるかの懸念や、需要調査も並行して検討したほうがよいかもしれない等の意見もあった。琉大も友愛医療センターも体制が整っていないこともあり、引き続き、患者さんに直接来て頂いてカウンセリングを行う。

5. 次回 WG 開催日程について

次回開催は未定。